

JWFファンド2020 完了プロジェクト概要

7. Mitumeスラムの公立小学校4校の雨水貯留タンクの設置 (ケニア)

- 実施団体: Elite Community Development Empowerment Programme (ECODEP) (#180)
- 費用: 1,639.3ドル (JWFファンド975ドル、団体310.3ドル、受益者354ドル)
- 受益者数: 3,457人
- 実施地の水問題:

対象地域の学校の多くは給水設備、トイレや手洗い場がない、または不十分であった。学校では汚れた水を使っていたため、下痢症などの病気が発生していた。学校への政府からの資金は十分でなく、毎年増える生徒数に対して十分な設備を拡充できていなかった。また、子どもたちはトイレの後に手を洗う習慣がなかった。



計画前: 既存トイレには手洗い場がなかった 完成した雨水貯留タンクと児童たち

手を洗う児童たち

- 主な活動内容: 小学校4校へ雨水貯留タンク各1基設置、集水設備の設置と手洗い設備の設置、各学校教員への衛生と病気に関するトレーニング4回、生徒への衛生に関する授業
- 持続性: 設置した雨水貯留タンクの維持管理は各学校が実施する。

これらの活動により、給水環境が改善され、学校環境の向上が期待された。

JWFファンド2020 フォローアップ結果

7. Mitumeスラムの公立小学校4校の雨水貯留タンクの設置 (ケニア)

【現状】

- 小学校4校の雨水貯留タンクは全て完全な状態だった。手洗い場4カ所のうち3カ所はわずかな損傷があったが機能中。1カ所は水栓の損傷により機能していなかった。
- 石鹼は政府から供給されていた。
- 教師や生徒、用務員は正しく施設を使っていて特に問題はない。
- 実施団体ECODEPはケニア健康省の支援により、毎年WASHトレーニングを各学校で実施している。施設の維持管理は、全ての学校で熱心に行われていた。

【変化】

- 生徒たち全てに、トイレの後と食事の前に手洗いの習慣ができた。学校内で清浄な飲料水の水源ができたので、信頼できない水を恐れていた子どもたちでも安心して手を洗うようになった。
- 全ての学校で、衛生指導を実施して守られているので水系感染症は減った。

【その他】

- 草の根団体の活動は、資金不足が課題。
- JWFF2020の活動に感謝している。



Likhuna小学校の雨水貯留タンク2023



Kalonei小学校の雨水貯留タンクと生徒たち 2023



Masinde小学校の雨水貯留タンク2023 2

JWFファンド2020 フォローアップ結果

7. Mutumeスラムの公立小学校4校の雨水貯留タンクの設置(ケニア)

現場からの声(一部抜粋)



Annet Naliaka さん
(11歳)

友達や家族と、雨水貯留施設や衛生活動について話しています。この事業によって衛生を良い状態に保てるようになったので、保健衛生が改善しました。私も友達や家族へ、トイレの後や食事の前に手を洗うように話して、保健衛生活動を実施しています。学校では生徒に雨水貯留施設をきれいに使うように指導していて、維持管理は用務員さんがやってくれます。



Fatuma Omarさん
(45歳)

JWFとECODEPによるこの事業に感謝します。お陰様で私たちの学校の保健衛生と、COVID-19の緩和に大変役立ちました。この事業とWASHトレーニングにより生徒、教師と地域社会全体が衛生で健康的な生活習慣の重要性に気付くようになりました。保健衛生活動全般が改善され、良い結果が得られました。生徒、教師や他のスタッフに、保健衛生習慣が広まりました。残念ながらこの学校は、物が少ないところがあるので何度か水栓を盗まれてきました。そこで、施設警護のために2・3人警備員を追加で雇う計画があります。



David Mbaleaさん
(53歳)

この事業は、私たちの共同体が保健衛生を前向きにさせるインパクトがありました。学校で保健衛生習慣を学んだ子どもたちが、家で私たちに教えて実践してくれました。また、多くの人によって正しい保健衛生活動が行われたので評判になり、周辺の地域社会と知識や考え方の交換ができました。JWFとECODEPには、この成功体験をもとにまた同じような計画を立てて助けて欲しいと思います。私たちが良い保健衛生を求める旅にみなさんが参加されたのは光栄で、また一緒に働いていただけるとありがたいです。